



# 「わとくのサンルームから」

兵庫県立和田山特別支援学校

校長 野口 照正

←本校ブログページのQRコードです。

この度の能登半島地震におきまして被災された皆さまに、心からのお見舞いを申し上げます。

## 1 「心の師」

神戸新聞2面に『随想』というコラムが、連載されています。3月13日はABCアナウンサーを定年退職後も局アナを続けられながら、県内唯一の定席寄席小屋「喜楽館」の支配人もされている伊藤史隆さんが、



書かれていました。そのタイトルが「師・道上洋三さん」でした。道上洋三さんは先輩の局アナで、長く朝のラジオ番組を担当されていました。そのコラムは道上さんへのリスペクトに溢れた素晴らしい文章でした。機会があれば、是非お読みください。

そしてそのコラムを読み終わった後、私はふとF先生のお顔が浮かびました。F先生は、私が初任明けで赴任した学校で、生徒指導部長をされていた体育科の先生でした。丸刈りで金縁メガネの風貌はとても迫力があり、野球の指導者としても立派な先生でした。ある日、血気盛んであった当時の私が、学年主任の先生の言動に納得がいかず、職員室で大喧嘩をしてしまいました、しかも生徒たちがいる前で…。この様子を見たF先生が、私に厳しい口調で「ちょっと教官室に来い！」と言われました。ふと我に返った私は、稚拙な自身の行動を反省しながら、「きっと〇〇れる」と思いました。覚悟を決めて教官室に入ると、意外なことに「あのなあ…」と穏やかに私を諭されたのでした。その言葉が心に染みた私は、教官室で思わず泣いてしまいました。

その学校には10年間勤めましたが、F先生はさまざまな場面で教師としてのあるべき姿を見せてくださった、まさに「心の師」といえる先輩でした。私が3校目の学校に転出が決まった際にF先生が私にかけてくださったお言葉が、今も心に残っています。私が転出した数年後、F先生は病に侵され、残念ながら現職のまま、天に召されました。私は今でも困ったとき「F先生だったら、こんな時はどうされるかなあ」と自問自答をします。本当にありがたい「出会い」でした。

本日に「わとく」を巣立つ卒業生18名にも同じような「出会い」が、本校で経験していることを願っています。仲間や先生方との出会いや学びが、やがて「心の師」からの教えとして、彼らの将来の糧となる日が必ずやってきます。

前途洋々たる卒業生の未来を祝して、本日は全職員が心からの笑顔で、彼らを送り出します！

## 2 高等部の生徒たちが大谷選手寄贈のグローブを活用しました

先日、高等部の生徒たちが大谷選手から寄贈されたグローブを使って、野球の守備練習をしました。大リーガー気分で練習に取り組み、気持ちの良い汗を流せました。

大谷選手の熱い想い「野球しようぜ！」を感じられた1コマでした(^\_^)v

今後は小学部や中学部の子どもたちも使えるよう、積極的に活用していきます！



最後までお読みいただき、ありがとうございました。